

ひがしっ子

No.15 平成26年3月12日発行 文責 学校長 小笠原哲司

一年間、あいかとうございました

本年度も残る授業日数はわずかとなりました。24日(月)には修了式を行い、3月25日(火)からは春休みです。

本年度も保護者や地域の皆様のご支援・ご協力をいただき、充実した教育活動やPTA行事を展開することができました。厚くお礼申し上げます。

新学期は、4月7日(月)からのスタートです。

卒業記念品として昇降口に看板

今春卒業する6年生と保護者の皆さんから、卒業記念品として本校の「めざす子ども像」の言葉を書いた看板を寄贈していただけることになりました。すでに児童昇降口の上に設置されており、毎朝、子どもたちはこのスローガンを見ながら登校しています。ありがとうございました。



ほのほのと「6年生を送る会」

卒業式も3月20日(木)と目前に迫りました。間もなく卒業する6年生と下級生がともに遊び、感謝の気持ちを交わす「6年生を送る会」を3月4日(火)に行いました。



5年生が各教室に趣向を凝らしたゲームを準備し、6年生と下級生が縦割り掃除のグループごとに会場を巡って楽しみました。6年生は、最上級生として、優しく下級生をリードできていました。心温まる行事でした。



給食費の口座振替手数料が変更

本校では、給食費の集金は保護者の方の四国銀行の口座から引き落としをさせていただいております。この度、四国銀行から「平成26年4月1日から消費税率が8%に引き上げられることに伴い口座振替手数料を変更する」旨の通知がありました。つきましては、本年4月から引き落とし手数料が次のように変更されますのでご承知おきのうえ、引き続いてのご協力をよろしく願います。

現行の引き落とし手数料 …… 52円

4月以降の引き落とし手数料 … 54円

学校評価書の報告

2月27日(木)の「開かれた学校づくり推進委員会」では、推進委員の皆さんにいただいた学校関係者評価の結果をご報告しました。その要約版を裏面に掲載します。この学校評価の結果は、来年度の学校の教育計画や重点的な取り組みの立案に活かしてまいります。全文は、本校のホームページでご覧いただけます。

平成25年度 学校評価書〔要約版〕

※ 評価は、S…大変優れている、A…優れている、B…概ね満足、C…要改善の4段階。「ア」は「アンケート」の略です。

自己評価

自己評価				学校関係者評価	
中項目	小項目 (評価指標・具体的な取り組み)	達成状況・改善方策	評価	評価	コメント
心の育成	全教職員が児童の理解に努め、支援や適切な指導と評価を行う。善行を褒め、改善されたことを認め、いけないことは毅然と指導する。	Q-Uやいじめア(2回)を実施し、人間関係の把握、望ましい関係づくりに努めている。児童アでは「友だちと仲良くしているか」の肯定群が97.6%。	A	A	児童アでは93%が「学校生活が楽しい」と答えており、ほとんどの子どもたちは楽しそうに学校生活を過ごしているように思う。地震対策としては、着実に取り組みが進められている。さらに地域と連携した取り組みを継続してほしい。体力面では、児童が体を動かす楽しさを感じられるようさらに授業や取り組みの工夫が望まれる。
安全管理 危機管理 環境整備	緊急事態発生時の予防的な取り組みを推進する。防災教育カリキュラムに則った学習を行うとともに、想定を変えながら避難訓練を実施する。また、災害時用備蓄を進める。	南舎の耐震工事を終え、屋上までの避難階段を設置。トイレも改修し男女各1台ずつ洋式便器を設置。避難訓練、防災頭巾の常備、飲料水・乾パンの備蓄等に取り組み、潮江4校の連携にも努めた。	A	A	
体力向上	運動のできる環境整備を行う。また、活動量を高める運動方法を取り入れた授業の改善に努める。	児童ア「外遊びをしているか」の肯定群が79%と昨年より3.3%向上したが、体力テスト結果は全国平均を下回った。	B	B	
学力向上 授業改善	個々の児童に思考の場があり、相互のかかわりや、主体的な活動が展開できる授業について研究を進める。また、授業、加力指導、家庭学習を通して、個々の学習量の向上を目指した取り組みを行い、学力調査等における「1 評定」(努力を要する)の児童の減少をめざす。	児童アでは94.9%が「授業がわかる」と回答し、昨年度より3.1%増加した。学力調査結果は昨年度に比べ、5年生の「1 評定」の児童が大きく減少したが、4年生では増加した。放課後や夏休みに「のびのび教室」を開設して個別支援も行うとともに、2学期からは毎週月曜日に「視写タイム」も開始した。	B	B	「授業がわかる」と回答した児童の割合が昨年度よりさらに高くなっていることは評価できる。学力の定着度には個人差があると思うが、放課後や夏休みを利用して個別の学習支援をしていることはすばらしい。今後も、どの子にも確かな基礎学力を身につけさせてほしい。本年度から新たに3年間の研究指定を受けたことで、児童の言語能力をさらに伸ばす取り組みが期待される。
研修体制	職員会や夏季研修など、効率的な研修体制を確立する。外部講師だけでなく、内部講師を活用し、学び合える職場体制を整える。教職員アンケートの項目「研修体制の確立」において90%の肯定評価をめざす。	本年度から新たに教育課程拠点校の指定を受け、12月に中間研究発表会を開催。県外から講師も招き、研究の方向性や具体的な指導方法等についてご示唆をいただいた。教職員アの項目「研修」における肯定評価は100%だった。	S	S	
基本的な生活習慣の確立	生徒指導部を中心に校内外での生活ルールの確立をめざした指導を継続し、落ち着いた生活習慣を確立する。	学校のルールは概ね守られており、落ち着いた状態。廊下の歩き方やスリッパの脱ぎ方は、守れない児童もいる。家庭学習については、94.1%の児童がほぼ毎日できると回答。(昨年より2.3%増加)	B	B	昨年度に引き続き、学校全体としては児童の落ち着きが感じられる。挨拶やお礼が言える児童が増え、言葉づかいも丁寧な子が増えている。
コミュニケーション能力	縦割りでの人間関係の確立、「あいさつ」「ことばづかい」に指導を重点化。周りの人とのかかわり方を身につけさせる。	児童ア項目の「言葉づかい」では肯定評価が83.3%、「挨拶」では89.2%、「そうじ」で96.4%、「話を聞く」で88.8%。しかし、相手を傷つける言動もある。	A	A	一方、自転車の乗り方、公園等での危険な遊び、暗くなっても遊んでいる子、量販店への出入りなど、心配な状況も見られる。家庭の状況もさまざまであるが、今後も保護者との連携を密にし、児童への支援を継続してほしい。
不登校対応 特別支援教育	校内支援委員会を定期的に開催する。関係機関、スクールカウンセラー等とも連携を密にし、不登校児童や要支援児童と保護者に寄り添った支援を行う。	不登校傾向や、手厚い支援を要する児童の対応については、校内支援委員会を定期的に開催し、関係機関とも連携した取り組みを継続。不登校児童については、それぞれ改善傾向が見られる。	A	A	
組織運営	校内運営委員会や研究推進委員会を活用し、各部の方向性や分掌を明確にするとともに、各部が先を見通して主体的に取り組む体制を目指す。教職員ア項目「組織連携」において肯定評価90%を目指す。	研究推進委員会・運営委員会において調整をし、各部会が主体性を持って取り組みを進めている。教職員アで「学校の組織運営」に関する項目において100%が肯定評価となっており、学校経営診断でも評価点は4.5(最高5点)と高い。	A	A	学校教育目標の達成に向け、教職員がチームとなって意欲的・組織的に教育活動を展開できている。学校の方針や目標を積極的に保護者に発信し、保護者と学校がさらに連携した学校づくりを進めることが大切だと考える。
学校運営	児童、保護者、地域の声や教職員の意見、学校経営診断の結果等を学校運営に生かすよう努める。	保護者ア項目「学校は保護者・地域の声を運営に生かしているか」の肯定評価は91.8%、教職員の肯定評価は100%。	A	A	
保護者・地域連携	PTA 会合や開かれた学校づくり推進委員会で、児童の状況を報告し、学校・保護者・地域の連携を強化する。	PTA 行事等では、充実した取り組みを実施。また、PTA 行事や地域行事に、教職員も積極的に参加できている。代議員会では、学校の取り組みや課題も説明。	A	A	PTA 行事や地域行事に、教職員も積極的に参加し、地域との連携も密接。さらに参加児童が増えることが期待される。メールによる情報発信も有効に機能。日常的なPTA 活動や学年・学級懇談会などについて、さらに多くの保護者に参加してほしい。
情報開示	あらゆる機会に学校の取り組み等を情報発信していく。保護者・地域関係者アの項目「情報発信」において肯定評価90%をめざす。	学校通信、行事案内号、学年通信等で情報提供に努めている。また、「ひがしっ子メール」による緊急連絡も行っている。保護者アでは、92.1%が肯定的な回答、昨年より1.3%増加した。	A	A	